

目次

I

会議の退屈しのぎ	3
折紙外交	5
共同柱	9
上園町周辺	11
ブラケットのことば	14
『良友』と『中学生』	17
数学研究の遺稿	19
大加速器の運命	22
勇気あることば	24
私のエネルギー問題	26



朝永さんおめでとう 役所の委員会 研究中障害 学者の海外渡航  
 アメリカの外人科学者 学会の台所 学会の育成 科学技術基本法  
 よろず学会引き受けどころ 少年老いやすく 予算獲得合戦 日本  
 学術会議 ホミ・バーバ博士の死 入きょう集札 ぜんそく 名古  
 屋ちゃんがあ 日本学術会議 超電導コイル フィードバック(下  
 意上達) 二つの科学博物館 二つの主張 大学の危機

「紙つぶて」(コラム、一九六八年) . . . . . 118

歩道橋 払いもどし 名古屋の商売 キロ円、メガ円 蛍光灯 ア  
 クロニマニア 大学院 二重の論理 数・記憶術・キモノ あるア  
 メリカ人との対話 銀行を使え あるロシア人との対話 名古屋の  
 縁 あるドイツ人との対話 第二メスパウアー効果 大学問題と学  
 術会議 マンガ大学生 女流物理学者の死 ドイツの研究費 地名  
 変更 東大紛争と理性 大学教授の生態 巨費科学と零細科学 年  
 賀状・形式・しつけ 『裸のサル』

「東海随想」(コラム、一九六九—一九七〇年) . . . . . 161

原子力の十五年 一線 核共闘 科学技術基本法 児童心得 五ミ  
 リ 「ひよる」ことのすすめ 須佐之男神社の祭 自分の判断 講  
 座制とは N・H・K 非理法権天 豆腐屋へ五里 フランス人の

寺田寅彦先生との接触	29
------------	----

\*

北海行	33
科学者と科学的生活	43
敗戦記	45
やさしく言おう、やさしく考えよう	52
二十の扉	54
反動	56
婦人と科学	59
学者の年齢	62
ある性格の憶い出——我が多感の頃——	64
著者略年譜(自筆)	69

## II

「あすへの話題」(コラム、一九六五—一九六六年)	75
--------------------------	----

国際学術会議引き受けどころ 超民主主義 研究開発のための予算

IV

時代の子か——仁科芳雄博士追悼——	271
亡き嵯峨根さんのこと	274
菊池正士先生を悼む	278
大山義年先生を悼む	282
熊谷寛夫さんの思い出	285
朝永振一郎先生を悼む	290
湯浅年子さんを悼む	295
湯川先生とのつき合い	300
坪井忠二先生の憶い出	305

解 説

永井道雄

赤ちゃん 死なばもろとも イギリスの味 СТОП ピーターの  
 法則 汚染 ものまね研究所 漢字の行方 時代の推移 紙くずの  
 始末 アマルデイ教授 車と車との対話 梅花一輪

「視点」(コラム、一九七一年) . . . . . 193

物理学は終わった!? 処女雪 学者の私生活 アルペンのノーベル  
 講演 ヒルベルトの伝記 回転対称性 オッペンハイマー事件 有  
 限数学 過去計画 濃縮ウラン 博士洪水 理屈というもの 派閥  
 意識

### III

中国の印象 . . . . . 209  
 原子力施設の門戸 . . . . . 214  
 二十一年目の中国 . . . . . 218  
 アインシュタイン記念シンポジウムに出席して . . . . . 224  
 アカデミア・デイ・リンツェイ探訪 . . . . . 230  
 エッシャー学際会議の印象 . . . . . 244  
 湯川中間子論五十年とニールス・ボーア生誕百年 . . . . . 251